



泗水図書館 ☎0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111
 内線 303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

菊池市図書館ホームページ <http://www.kikuchi-lib.jp/>

司書のつぶやき

チョコレートとコーヒーとキリンとする恋愛小説はいかがですか？
 メロン



新着・お薦め図書

泗水図書館

天下人の茶 伊東 潤 著
 超高速！参勤交代 老中の逆襲 土橋草宏 著
 モナドの領域 筒井康隆 著
 颯風大王 河崎秋子 著
 すぐ書ける確定申告 須田邦裕 監修
 おやすみ、ロジャー魔法のぐっすり絵本 カール＝ヨハン・エリー 著
 勇気の花がひらくとき 梯久美子 文
 ふゆってどんなところなの？ 工藤ノリコ 作・絵

中央公民館図書室

Windows10 パーフェクトマニュアル タトラエディット 著
 みんな彗星を見ていた 星野博美 著
 ぼくらのリノベーションまちづくり 嶋田洋平 著
 人魚の眠る家 東野圭吾 著
 ユートピア 湊かなえ 著
 きみはうみ 西加奈子 文
 もりもり森のネコロック あさのあつこ 文

七城公民館図書室

はなちゃん 12歳の台所 安武はな 著
 すごい家事 松橋周太郎 著
 ゆきのんのねこざかな わたなべゆういち 作・絵
 世界一ときめく質問、宇宙一やさしい答え ジェンマ・エルウィン・ハリス 編

旭志公民館図書室

きのうの影踏み 辻村深月 著
 娘になった妻、のぶ代へ 砂川啓介 著
 ぬいぐるみのミュー いもとようこ 作
 黒魔女の騎士ギューパッド part3 どんなことでも、百発百中！ 石崎洋司 作

オリジナルカレンダーを一緒に作りませんか？

参加無料

とき **3月5日(土) 午前10時～11時**
 ところ **七城公民館 和室(1階)**

申込期限 **3月4日(金)**
 申込方法 **電話か七城公民館図書室に直接お申し込みください。**



手づくりの卓上カレンダーができます

耳より情報

**～平成27年度おはなし講座①～
落語を楽しもう！**

とき 2月13日(土) 午後1時開演 (0時30分開場)
 ところ 泗水図書館
 定員 約50人(参加無料)※先着順



東京大学出身の落語家・春風亭昇吉さんが来館！
 詳しくは館内チラシまたは図書館ホームページをご覧ください。

リサイクル本を配布します

とき 2月13日(土) 午前9時～午後5時
 14日(日) 午前9時～午後3時
 ところ 菊池市文化会館小ホール入口

**同日開催！
生涯学習
フェスティバル**

図書館(室)で使用できなくなった本や雑誌のバックナンバーをリサイクル本として無料配布します。本を入れる袋やバッグはお持ちください。
 ※当日は中央公民館駐車場の混雑が予想されます。ご迷惑をおかけしますが予めご了承ください。

万句の里俳句会 12月句会

枯木立枝の広げて空青し 野中 公枝
 師走てふ事を忘れて老の日々 北村 妙子
 ひっそりと咲いて淋しき冬桜 平山 邦子
 鵜高音静寂の杜を切り裂けり 宮本 雅子
 おしゃべりの輪に耳貸して毛糸編む 松永 久子

せせらぎ俳句会 12月例会

しぐれ虹湖底に眠る里のあり 藤本 邦治
 みどりごの歩み初めたり十二月 服部 静子
 息絶えし蟪蛄今朝の霜の上 藤本アツ子
 賀状書き済ませて喪中のはがき来る 五丁 義昭
 来る年は大人しくあれテロリスト 寺本 和子

旭志文芸教室俳句の会12月詠草

せせらぎの川原飛び交いいたしたき 芹川のり子
 納骨堂へ続く里道のいこずち 中尾ヨシコ
 草紅葉余生細々畑守る 芹川 蓉子

反芻の牛時雨にも動かざる 水谷 ミネ

肥後狂句水笑会 12月例会
 目一杯ア おごりと思ひ酔っぱらい 藤野 清子
 損な話 禿もおんなじ床屋代 光堀 善教
 やすやすと 通り抜けけらすミニ鳥居 上村 ○子
 くされ縁 負くる選挙も逃げられん 小川 繁美
 水入らず 夜通し飲んで二日酔い 狩野 本六

肥後狂句水笑会 12月例会

落葉樹 俺の人生ようにとる 柏原 乗仏
 古女房 伊達に古くはなつとらん 御手洗三代
 古女房 若か男とさろきよる 宮上 美由
 大当たり 双子双子で恵まれた 吉岡 三水
 大当たり 思うとおりの嫁もろた 中島 五女

七城短歌会 12月詠草

溪谷の紅葉トンネルくぐり行く温泉 嶋田 晴美
 バスの旅人我ら 中川 愛子

着服れて乗りいる送迎バスの窓季節 外れのヒマワリ咲く見ゆ 木下 陽子

「新聞は辞めたら」と娘等の問いかけに無言のままに顔横にふる 池田カツ子
 唐突に末娘逝きにし虚脱にて事手に就かず時過ぐるのみ 岩崎 照代
 食事待つしばしを炬燵でうたた寝の微睡み止むる妻の呼び声 佐々 重弘

「里」短歌会 12月詠草

朝まだき畑に出でて菜をとる冬の三日月残れる中を 前原 ゆみ
 手植えせし楓紅葉を城山に夫と愛でしは杳き日のこと 林 淑子
 白百合を墓前に供へ義父母様亡夫を宜しくと深く頼ずく 山城 雅子
 六十年経し楓の枝の切られゆく黄昏の庭不意に切なく 川口 敦子
 鞍岳を背に登りゆく坂道の頭上に広がる冬の青空 江頭 桂子

高齢者大学文芸部 12月歌会

剪定の緑葉ひかる松と榎樹齢百年歴史を刻む 北村 玉恵
 銀色に光る芒の波遙か風そよぐなか深く息吸う 岩根 博恵
 ちちろ鳴く良夜を友と長電話過ぎ越し旅路は語り尽くせぬ 中川 愛子



菊池短歌会 1月詠草

朝なさな朱の満天星に声かくる植ゑにし父を顕たす霜月 岩木タエ子
 籠もりある冬の一日カレンダーのバラの絵柄が家内を彩る 山代 静子

大阿蘇の天を突き抜く鈍のごと杉の木立の錆朱かがやく 岩永 典子

これまたまた愛の行ひ犬猫は家族と同じに墓に葬らる 古賀 勝士
 元朝の阿蘇は太古の靈宿し磨きぬかれて蒼空高し 中川 愛子
 我が歌ふメディアは知らぬ反戦歌を壁にもたれし亡父聴きあつ 怒留湯健蓉